



美術品梱包作業を資格制度化する動きが

●ノウハウが失われる危機 — 日本博物館協会、報告と提言を取りまとめ

今回の見学では、博物館の収蔵品輸送がいかに難しいのかということを知り思いました。もちろん、その取り扱いには慎重に慎重を要するのが当然であることは理解していましたが、やはり特殊な品であるだけに、小さな館でもこうしたノウハウを共有できるよう、業界全体の課題として周知していく必要があるのではないかと考えざるを得ません。

こうした課題はすでに対応の検討が始まっているようです。日本博物館協会では今年の3月、「美術品取扱い技術等に係わる委員会」の名義で民間資格制度の創設についての報告と試案を取りまとめています。

報告では、博物館の予算削減が目立つ中、経験豊かな学芸員や熟練した技能者らの高齢化によって知識・技能の継承が困難になりつつあることが指摘されています。また、公的施設全般で一般競争入札への転換が進む中では、経験やノウハウを持たない業者が落札するケースも出始めており、不用意に取り扱われるケースも出かねないとの危惧にも言及。全国の博物館が共有すべき課題として、資格制度の導入を検討する必要性を訴えています。



●その名も「美術品梱包輸送技能士」

同委員会では提言されている資格制度の試案では、その名称を「美術品梱包輸送技能士」としています。実施主体は日本博物館協会とし、等級や受験資格は以下の3つに区分。実施に向けて、今後、議論が進むものと思われます。

今回見学した梱包作業は、確かに知識や技術がなければ困難なもの。こうした試みは、情報や技術を業界全体で共有する上でも極めて有意義ですので、ぜひ早急な実現を望みたいものです。

美術品梱包輸送技能士 等級の区分と受験資格（日本博物館協会による試案）

等級	概要	経験年数	保有資格
1級	全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、取扱いの難しい作品の梱包設計が行える水準	10年以上	2級
2級	全ての分野の作品について、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、現場で作業員の監督ができる水準	5年以上	3級
3級	需要が多く、比較的取り扱いの容易な陶器、額装の絵画、屏風、掛け軸などは、所有者・学芸員の指示の下、独立して取り扱うことができ、それらの梱包・運送に必要な段ボールケースが準備できる水準	2年以上	—

●編集後記

社内報として制作してきた「みゅーじあむ・かわら版」と、不定期刊行の「I.B.MUSEUM News」を統合することで、新たに生まれた「MAPPS Press」。前回、月1回の発行を目指して……と申し上げましたが、やはり大きなことは言わないほうが無難ですね。第2号からして発行が遅れるという醜態を晒すことになってしまいました……（汗）。

今回は、出光美術館様のご協力を賜り、博物館の作品梱包の現場取材させていただきました。そこで感じたのは、「やはり素人では難しい作業」ということ。コストダウンも重要ですが、扱うモノが市民の宝であるだけに、こうした部分には予算を確保したいもの。もしも、もう少し詳しく知りたいという方は、弊社までご一報ください。（担当：U/I）



慣れていないと意外に難しい？ 作品の搬出のための梱包作業。

近年のコスト重視の潮流で、さまざまな作業が困難になりつつある博物館運営。学芸業務に各種イベント企画などの実務だけでも精一杯なのに、次々と発生する事務や雑務に追われて学芸員が疲弊しているケースも珍しくありません。特に職員の数が少ない館では、負担は大きくなるばかりです。

そんな中で大きな課題となっているのが、博物館の専門業務に関する知識共有の場が確保できないこと。作品の展示や保管は、企業のショールームのように気軽に行える業務ではないだけに、ひとつひとつの作業に専門知識が問われます。それなのに、先輩から後輩へとノウハウが継ぎにくくなっている状況に、内心忸怩たる思いの方も少なくないはず。

たとえば、展示替えに伴って発生する作品の移動。他の館から借り受けたとしても、慣れていないため段取りや手順が分からずに、躊躇してしまう館も少なくないのが実情です。そこで今回は、作品の梱包作業について簡単にレポート。出光美術館様のご協力、博物館の収蔵品に専門知識を持つ運送会社スタッフの「プロの技」を見学してきました。

なかなか学ぶ機会の少ない業務の筆頭？
博物館の梱包作業
年々、増える一方と言われる博物館運営業務。この仕事が増えると、あの仕事に割く時間が圧迫されて、次の仕事にも支障が出る……というシーンは、残念ながら多くの館で見られるようになりました。中でも多数の学芸員がお困りなのが、貴重な作品を守るためのノウハウ。今回は、一見地味でも重要な「梱包」についてのお話です。

取材協力

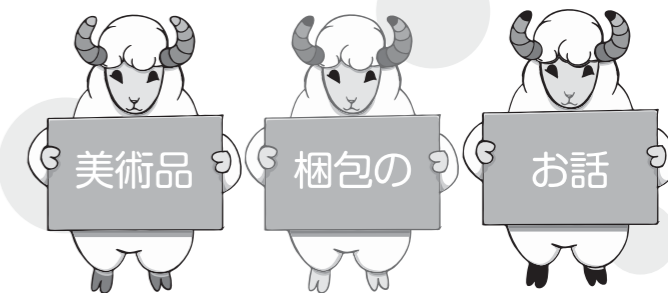
出光美術館様

東京都千代田区丸の内3-1-1 帝劇ビル9階



◎次ページ以降、プロの冴え渡るテクニックを写真でご紹介！

プロはこうして作品を守る。 運送業者の「搬送護衛」テクニック。



●出光美術館にお邪魔して搬送作業を見学しました。



この日にお邪魔した出光美術館は、ちょうど展示替えの真っ最中。館職員と日本通運のスタッフ皆さんが総出で荷づくりを行っているところでした。お忙しいところに恐縮しつつも、作業の様子を撮影させていただくことに。

お話をお訊きしたところ、こうした運搬作業が発生する場合は、出光美術館では事前に運送会社のスタッフと打ち合わせを行うそうです。その場で運ぶものの採寸を行い、作品のサイズが大きい場合は専用の簡単な木箱を作成、搬出当日までに持ち込みます。

作品の貸し借りが少ない館では機会があまりないかも知れませんが、通常、こうした作品搬送用の梱包材の準備は、借りる側の館が行うことが多いようです。今回は、形状の複雑な作品をプロが梱包する作業を間近で拝見しましたので、その様子をご紹介します。



●わずか 15 分ほどで完全梱包するプロの技。

作業の傍らでじっくりと写真を撮影させていただいたのは、中国・唐時代の逸品「三彩駱駝」の梱包までの流れです。専用の箱を用意していますが、単に木を組んだもので、固定や補強などはその場で判断しながら作業を進めるのだとか。今回のように壊れやすい作品は、揺れや衝撃のない展示室内とは異なりテグスをかけにくいいため、緩衝材の詰め物とゴムを使っておられました。

もし予算に余裕がある場合は、梱包から業者さんをお願いするのが吉。専門知識を有するスタッフを揃える会社は多くはありませんので、まずは大手に相談するのがベストであるようです。

★ 弊社のひとこと見学メモ付き！ 写真で見る美術品梱包



慎重になって
なりすぎることはない！

まずは木箱の大きさを確認しながら、中に入れるための準備作業。モノがモノだけに慎重そのもの。



作業は必ず
複数の人で行うこと！

足場を固定したら、詰め物を入れて行きます。作業は2名のほか、展示室から運び出す方が1人。



空いた空間をなくすのが
梱包作業のコツのひとつ！

少し心配されたのは、駱駝の首のまわり。その場で的確に判断し、すぐに「枕」を作っていました。



館から外への運び出しの時に
人目に触れない配慮を！

中に入れ終わったら外から木で閉じて、見える部分をさらに段ボールで覆って完成です。